

分野名	資源循環型社会の構築	施策No.	Ⅲ-2	施策名	廃棄物排出量の削減
目的及び内容	リデュースとリユースの推進により使用済みとなるものの発生量を削減することで、廃棄物排出量を削減する。				
分野内における位置付け	分野の2020年目標である「産業廃棄物の最終処分量48万トン以下」の達成に資する。 (大阪府循環型社会推進計画のH27年度目標は、一般廃棄物排出量(事業系資源化量含む)305万トン、産業廃棄物排出量1,565万トン)				
関係法令、行政計画等	循環型社会形成推進基本法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、資源有効利用促進法、各個別リサイクル法、大阪府循環型社会形成推進条例 大阪府循環型社会推進計画(H24年3月策定、H27年度まで)				
施策に属する事業及び取組実績	毎年度点検評価対象事業名	取組実績(H23)	取組実績(H24)	取組実績(H25)	
	大阪府循環型社会推進計画の推進	目標、施策の明確化 ☆☆☆	市町村の排出量削減施策把握、市町村取組の要請 ☆☆☆		
	単年度サイクルの点検評価結果：☆☆☆想定以上/☆☆☆想定どおり/☆☆☆想定以下(特に改善を要しない)/☆想定以下かつ要改善				
	その他の主な事業名	実施年度	主な内容・実績		
	多量排出事業者制度の推進	H23-25	多量排出事業者の処理計画等を公表するとともに、減量化の取組について助言等を実施		
	大阪府住宅リフォームマイスター制度	H23-25	安心して住宅リフォームが行えるよう、業者を登録して紹介。		
施策に要したコスト	事業のコスト(千円)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(見込み額)	
	本施策が主たる目的である環境関係事業	(26年度に記載)			
	本施策が従たる目的である環境関係事業				
	環境以外の目的を有する事業				
取組指標及び近年の実績(施策効果の定量評価)	取組指標	設定理由・把握方法		近年の実績	
	① 一般廃棄物の排出量	毎年度の市町村からの報告により把握。		H23年度345万トン(府民1人あたり1,085g/日) (事業系資源化量を含む排出量はH22年度370万トン)	
	② 産業廃棄物の排出量	5年に1回の産業廃棄物処理実態調査により把握。前はH22年度、次回はH27年度。		H22年度1,450万トン	
	③ 産業廃棄物の最終処分量	同上		H22年度47万トン	
副次的効果、外部効果等	①資源の有効利用に資する。 ②焼却処理量の削減により、温室効果ガス排出量、ダイオキシン類排出量の削減に資する。大阪府地球温暖化対策実行計画(H24年3月策定、H26年度まで)において一般廃棄物の排出量目標(H27年度282万トン)を掲げている。				
国等の政策、社会情勢等	国は「第3次循環型社会形成推進基本計画」(H25年5月)を策定。2R(リデュース・リユース)の取組がより進む社会経済システムの構築等を掲げる。				
点検・評価結果	①施策は概ね想定どおり進捗している。 ②一般廃棄物排出量については(平成26年度に記載) ③計画本文及び工程表に掲げた事業の進捗は以下のとおり。				
	事業名	進捗			
	[生産流通] 生産工程の発生原単位抑制	☆☆ 多量排出事業者制度を利用し、発生原単位抑制等につながる取組を促進			
	[生産流通] 建設工事における廃棄物の発生抑制	☆☆ 多量排出事業者の処理計画等をインターネットの利用により公表し、排出の抑制について自主的な取組を促進			
	[生産流通] レジ袋削減の市町村協定促進	(26年度に記載)			
	[生産流通] 製品長寿命化、修理体制、部品再利用等の製造業者への働きかけ	(26年度に記載)			
	[処理] 多量排出事業者の減量化の取組を評価する手法の確立	☆☆ 平成23年度に多量排出事業者(製造業)からの実績報告値を用いた評価手法を策定。平成24年度より評価結果に応じ、事業者に対し減量化等の取組を促した。			
	[消費] 中古住宅流通・リフォーム市場拡大	☆☆ 住宅リフォームマイスター制度、住まいの評価・管理アドバイザー制度等を実施			
進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆☆計画どおり/☆☆☆計画どおりではない					
施策・事業の改善方針等	(26年度に記載)				
取組指標、及び今後掲げるべき目標	(取組指標)				
	(指標の設定理由)				
	(今後掲げるべき目標)				

作成担当課・G

本作成例は、以下の前提で仮に作成したものです。本シートの記載内容は平成26年度の複数年サイクル点検評価実施時に確定します。
 ・記載している社会情勢等は現時点のもの。
 ・平成25年度の各事業の実績は、ほぼ年度当初の見込みどおりの実績となったと仮定。